



文化は一日にしてならず

～25周年事業を振り返って～

長久手市文化の家館長 生田 創



今年も終わりに近づき、新しい年を迎えようとしています。この一年、大変お世話になりました。

◆なぜ25周年？

さて、今年には文化の家開館25周年を迎えました。「なぜ25年でお祝いするのですか？」と時折訊ねられました。「ローマは一日にしてならず」と言いますが、文化を育むには途方もない時間がかかります。これを一世紀単位で考えると四半世紀は4回しかない：これは貴重な節目ではないでしょうか？

◆25周年事業の振り返り

4月には世界屈指の打楽器アンサンブル、コリン・カーリーグループのコンサートを開催しました。公演は東京と長久手だけで、その圧倒的なパフォーマンスに会場全体から歓声が上がっていました。また、現代最高峰の作曲家であるステイーヴ・ライヒさんがビデオ・メッセージを送ってください、さらにはジブリの音楽を手がける久石譲さんとスタジオジブリがSNSで情報を共有してくださったなど大きな反響を呼びました。



賑わう25周年祭り



コリン・カーリー・グループのパフォーマンス

7月には「25周年祭り」と題し、一大イベントを行いました。ガレリア空間を活かした写真展やマルシェ、アートショップ、所蔵作品展など、のべ1万人以上の来場者で賑わいました。



「どうした長久手」の一場面



新曲を披露する川上ミネさん

イベントのメインは、こけら落とし日の7月15日に開催した川上ミネさんのピアノコンサートです。ミネさんは、生まれ育った長久手のノスタルジーからインスピレーションを得て10曲の新曲を書き下ろし、長久手の風景を写した映像作品とともに初演しました。今や世界中で活躍するミネさんですが、原点である長久手への想いは強く、長久手

の自然の魅力を再認識する機会にもなりました。この10曲は別日に森のホールでレコーディングされ、来春にはCDとしてリリースされる予定です。

9月には歴史劇「どうした長久手」が上演されました。小牧長久手の合戦が大河ドラマで注目される中、人気劇作家の鹿目由紀さんが「もし合戦の前に秀吉と家康による話し合いが行われていたならば？」という架空の設定で台本を書き下ろしました。個性溢れる地元俳優陣が緊迫感あふれる丁々発止の会話劇を繰り広げ、子どもから大人まで多くの来場者で会場が賑わいました。

◆25周年記念誌の発行

現在、記念誌の編纂に取り組んでいます。25年間の取り組みの一端を皆様と共有することで、文化の家の実績を広く知っていただく機会とするとともに、将来の人材育成への活用につなげていきたいと考えています。そのため、単なる実績の記録ではなく現場のエピソードを多く取り入れ、誰でも手に取って参考にさせていただけるような「読み物」を目指しました。
(2面に続く)

(1面の続き)

なお、この記念誌の制作ではGCF（ガバメント・クラウド・ファンディング）によって寄付を募っております（募集期間12月3日から3月1日）。皆様のご協力をお待ちしております。



詳細はこちらから

◆今後について

文化の家は、耐震のためホールおよびガレリアの天井改修工事のために2025年1月から2026年3月にかけて休館します。普段からご利用いただいている皆様にはご迷惑をおかけすることとなり大変心苦しく思っております。これから長きにわたり安心して文化の家をご利用いただくとともに、新しい出会いや好奇心をかき立てる企画をご提供できるよう、職員一同務めてまいります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

それでは、どうぞ良いお年をお迎えください。

圧倒された力強い演奏

和楽器コンサート 『暮れの音』

フレンズ企画Part45

フレンズクリスマスコンサート

刃-J.I.N-



フレンズ恒例のクリスマスコンサートが12月13日(水)、森のホールで開催され、200人を超える観客が来場しました。

まず「津軽じょんがら節」をアレンジした楽曲から始まり、三味線や太鼓の激しい音に尺八が迫力のある音色で絡み合った力強い演奏に観客は圧倒され、いつべんに「刃-J.I.N-」の世界にひきこまれました。

その後は民謡や、クラシック、歌謡曲などのさまざまなジャン

ルの曲やオリジナル曲の、ソロや合奏が次々に演奏されました。最後にオリジナル曲「まつり」でコンサートを締めくくり、鳴りやまない拍手に添えて「ソーラ節」が会場の手拍子とともに響き渡り、盛況のうちにコンサートの幕を閉じました。

★次回フレンズ企画★

2024年6月29日(土)

Jルークスシンガーズ

アンサンブル

ようこそ!

お久しぶりです

うたごえフレンズ
4年ぶりに開催

コロナ禍で中止になっていた「うたごえフレンズ」が10月5日10時より、文化の家、光のホールで4年ぶりに開催されました。

当日は、司会、スクリーン、照明、受付などの、それぞれのスタッフが一生懸命準備し、時間通りに開場すると、あちこちで「お久しぶり」という元氣な声が聞こえてきました。



しあわせなら手をたたこう♪

2024年 歌い初め

2月1日(木)

文化の家 光のホール
午前10時から11時

ふるってご参加ください!

(注)1月はお休みです。

軽快なピアノ伴奏に合わせ恒例の「幸せなら手をたたこう」から始まり、秋にふさわしい「里の秋」「紅葉」などが続き、途中に、リラックスタイムが入りました。後半もなつかしい歌の数々を歌い、名残り惜しくも時間がきて閉会となりました。

うたごえフレンズは「毎月第1木曜日の10時から」です。カレンダーの予定表に入していただき、毎月1時間、大きな声で歌って、楽しい時間をお過ごしください。

「シラタマホシクサ」観察会

～フレンズスタッフ研修会～



シラタマホシクサ 頭花は多数の小花で構成され、雄花と雌花があります。花期は8月下旬から10月。晩秋になるまで白い金平糖のような花が見られ、「金平糖草」とも呼ばれます。

今回は「シラタマホシクサ」を見ようと、スタッフ11名と保全の会の皆さんで湿地に向かいました。

二ノ池湿地群は市の南東部、三ヶ峯丘陵に位置する二ノ池上流の谷一帯の湿地群で、湿地固有の生き物がみられます。周りの森はノウサギなどの哺乳類や森を好む鳥たちのすみかになっています。「東海丘陵要素植物群」とよばれ、湿地やその周辺のやせ地などでしか見られない特徴的な植物、中でもシラタマホシクサや、昆虫を溶かして栄養分を吸収する「食虫植物」のトウカイコモウセンゴケなどは、学術的にも重要といわれています。

県立芸術大学に接した入口から雑木林に分け入り、山道を登って行くと、少し開けたところに「シラタマホシクサ」が群生していました。長く伸びた針金のような茎の先に白くて丸い、かわいらしい花が目に見え込んできました。

絶滅危惧種でもある湿地の植物が見られ、スタッフは喜びの笑顔。ほかにも注意して歩かないと踏んでしまいうすな、小さな花の名前などを、会の方に教えていただき、真剣に撮影する姿があたり「ちっで」見られました。

また、会の方々の草刈りや、ごみ拾い、悪路に木道作りなどのごろの取り組みは、貴重な二ノ池湿地群の保全に、重要であることもよくわかりました。

帰り道では、なんと食虫植物でもある「トウカイコモウセンゴケ」を見つけたこともできました。

長久手市では人の立ち入りを制限し、湿地保全を推進しています。生物多様性を守るためには、日常の暮らしの中で、自然を守り育む行動が大切であることを、学んだ観察会でした。

《参考・引用》
長久手市環境課資料 (酒井)



トウカイコモウセンゴケ

《参考・引用》
長久手市環境課資料 (酒井)



貴重な植物を間近で観察



二ノ池湿地群エリア



サワシロギク



ヒヨドリバナ



ミカキグサ

湿原の花たち

文化の家改修工事のため

フレンズの会費変更に関するお知らせ

文化の家の特定天井等改修工事に伴い、文化の家全施設の利用ができなくなります。

休館期間：2025年1月5日～2026年3月末日

つきましては、フレンズの会費を以下のとおり変更いたします。

- 2024・2025年度（2024年4月1日～2026年3月末日）の会費2年分を1年分の会費と同じ1,500円といたします。
- ゆうちょ銀行からの会費引き落としも上記同様2年分を1年分の会費と同じ1,300円といたします。

なお、会費引落としの方で退会される方は2024年2月15日までに文化の家1階受付にて手続きをお願いいたします。その他お問い合わせに関しましては、文化の家までお願いいたします。

ながくて寄席 好楽・小遊三 二人会



日時 2024年1月28日(日) 14:00開演 (13:30開場)
 会場 森のホール
 料金 フレンズ会員 3,600円 (当日 4,300円)
 ー 一般 3,800円 (当日 4,300円)
 ※ 全席指定・未就学児入場不可

笑点でお馴染みのおふたりによる落語会。小遊三師匠は、軽快な噺を得意として真打ち昇進から40年、長久手ではどんな芸を見せてくれるかお楽しみに。同年代の好楽師匠は、長久手初登場。すっとぼけた印象の好楽師匠ですが古典落語は一見の価値あり。ご期待ください。

創造スタッフ小田智之プロテューズバンド スーパー登山部 Live「2024年登山の旅 vol.1」

日時 2024年3月2日(土)
 開場 16:00 開演 17:00
 会場 森のホール
 料金 フレンズ・一般 4,000円
 高校生以下 2,000円
 ※ 全席自由・未就学児入場不可

音楽系創造スタッフの小田智之が今年結成したバンド「スーパー登山部」がジャンルの垣根を超え、森のホールでワンマンライブを行います！弦楽やパーカッションなども交えたスペシャルなゲストと共に、掛け替えのない一日をお届けします！



長久手市劇団 座☆NAGAKUTE 第35回公演 「ジプシー ～千の輪の切り株の上の物語」

作・横内謙介(扉座) 演出・佃典彦(劇団B級遊撃隊)
 日時 2024年3月16日(土) 13:30～ 18:30～
 17日(日) 14:00～
 ※ 16日(土) 18:30の回のおと、アフタートークを予定
 会場 森のホール
 料金 前売り・当日 フレンズ・一般:1,500円 高校生以下:1,000
 ※ 全席自由・未就学児入場不可

《あらすじ》

念願のマンションを購入した孝史。完成が待ちきれない彼は、妻の秀子連れ、真夜中に建築中の現場に侵入する。そこに謎の人々がやってきて、謎の行動を。工事現場の人々、部屋に住もうとする流浪の家族、そして夫婦の戦いが…。



稽古の様子

ひとりごと

この間スティック糊を使っていたら全然くっつかなくてさらにゴシゴシしてふと見たら、リップクリームだった。ねこと一緒に笑った。 (み)



豚の饅頭

ほっと
すべーす

長久手市在住 K.

豚の饅頭って何？調べてみたら、なんと「シクラメン」の事でした。きれいな花なのに酷い！と調べを進めると、明治時代に入ってから、球根の形が饅頭を潰した様だから付けられた和名とありました。西洋では、「豚のパン」とも言われ、豚が好んで食べる事から来ているそうです。大航海時代には、日持ちのする食料として、船に積み込まれていたとか。球根は食料になる。有事の時には保存食？

とも思いました。が、毒性が有り、ジャガイモが後を引き継いだそうです。後に、かわいそうと、花の形が、かがり火に似ている事から、「かがり火花」とも名付けられ、「豚の饅頭」「かがり火花」と二つの和名を持っています。でも、私達には、英名の「シクラメン」がしっくり来ますね。今年はシクラメンの見方が変わります。花が咲くのが、待ち通しくなりました。